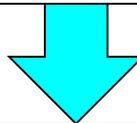


学校教育目標	
学校の教育目標	地域の未来を担う子
体:からだのけんこう	徳:こころのやさしさ 知:まなびをきわめる

令和5年度学校経営方針(学力向上に関わる要点)
<ul style="list-style-type: none"> 「個別最適な学び」と「協働的な学び」の実現に向けた授業改善を進める。 校内研究の教科を国語科とし、大学教授等と協働しながら授業改善を行う。 一人1台配布したタブレット端末等の ICT 機器を積極的に活用する。

指導の重点(各教科)
<ul style="list-style-type: none"> 問題解決的な学習や体験的な学習を重視した指導を展開し主体的な学びを創造する授業を行う。 言語活動の充実を図り、表現活動を重視してコミュニケーション能力を育成する。また、問題解決的な学習を展開し、自力解決と検討段階を充実させる。検討段階での対話を充実させ、主体的・対話的で深い学びの実践を通して、これからの社会を生きる上での児童の資質・能力を育てる。 一人一台端末を活用し、個別最適な学びと協働的な学びの実現を目指した授業改善に努める。ICT教育推進リーダーを中心に、授業の方法、学びの方法等の研修を行い、主体的・対話的で深い学びを実践していく。また、家庭との連携を図りながら、家庭学習にも活用し、個別最適化した学習スタイルを児童一人ひとりに身に付けさせる。 全ての児童が自分に合った教育を受けられるように、ユニバーサルデザインや合理的配慮が提供された学級経営・授業作りについて、生活指導夕会等で情報を共有しながら教育活動を進める。

指導の重点(総合的な学習の時間)
<ul style="list-style-type: none"> 自ら課題を見出し、自ら学び、考え、主体的に判断するという探究型の学習を通し、よりよく問題を解決する資質や能力を育成する。 地域人材を活用して国際理解、環境、福祉(ボランティア)・キャリア教育、地域を学習内容の中心とし、評価規準を活用した指導により、各教科で身に付けたことを活用する力を育てる。



授業改善に向けた具体的方策		
基礎的・基本的な学習内容の定着	発展的な学習	指導と評価の一体化
<ul style="list-style-type: none"> 主に3、4年生の算数少人数指導T2として任短教員が児童と関わり、必要に応じ個別指導を行っている。 放課後補充教室を通して、基礎的基本的な学力の向上に努める。 東京ベーシックドリルのテスト結果を集計し、課題を検討する。 	<ul style="list-style-type: none"> 自分の考えを伝え合い、学び合う活動の継続を図る。 高学年の一部教科担任制(理科、社会、外国語、家庭科、音楽、図工)を実施し、授業の充実を図る。 	<ul style="list-style-type: none"> 1単位時間の指導事項を明確にして、指導と評価の一体化を推進する。 自己評価や相互評価の効果的な活用を図る。
「個別最適な学び」と「協働的な学び」の一体的充実	ユニバーサルデザイン、合理的配慮	家庭・地域との連携
<ul style="list-style-type: none"> 本年は校内研修とし、各教科の新学習指導要領のポイントや、ICTの活用方法を学び、授業改善に活かす。 国語科の授業研究を国立大学付属小や近隣大学と連携して進める。 	<ul style="list-style-type: none"> 各授業で児童全員が学び合えるように、「焦点化」「視覚化」を重視して授業改善を行っている。 	<ul style="list-style-type: none"> 地域の人材(保護者、民生児童委員、朝会、親父の会等)の活用を図る。 2回の通知表と二者及び三者面談を通して家庭との連携を深める。

2 各教科における授業改善プラン

(1) 国語科

【小学校】

国語科における指導の重点
<ul style="list-style-type: none"> 一人1台端末を活用した個別最適な学びの機会を設定し、日常生活に必要な国語の知識・技能を定着させる。 言語活動を通して、言語を手掛かりとしながら論理的に思考する力や豊かに想像する力を養う。 話す聞く・書くなどの表現活動を通して協働的な学びの充実を図り、伝え合う力を高める。

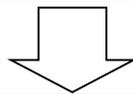
現状分析

区学力調査の結果分析

- 国語科の区学力調査の達成率で見ると6年生74.6%(区-0.4%)、5年生73.6%(区+8.6)、4年生79.8%(区+9.7%)、3年生80.2%(区+5.6%)、2年生73.2%(区+1.8%)である。6年生では、区比較して若干低く、2~5年生では、区と比較しても高い結果である。
- 問題の内容ごとの正答率を見ると、どの学年でも目標値を下回ることにはなかった。しかし、「漢字・言葉の学習」「文章を書く」内容については、どの学年でも他の内容に比べると正答率が低かった。その反面、「話し合いの内容を聞き取る」「漢字を読む」「文の内容読み取る」内容については、他の内容と比べ正答率が高めてあった。

教科指導上の課題

- 漢字書き取りや言語に関する知識など基礎的な内容を定着させるために、ICT 器機を活用し、視覚的に分かりやすい授業を展開することや、個に応じた問題に取り組めるようにするなどの工夫が必要である。
- 書く(表現する)力を伸ばすために、系統的・段階的に上の学年につながっていくことを意識し、螺旋的・反復的に繰り返しながら指導をする必要がある。また、表現する意欲や、表現に関わる思考力を育むためにも問題解決的な学習の展開をする必要がある。



授業改善プラン

	「個別最適な学び」と「協働的な学び」 の一体的な充実の視点	その他 (基礎的・基本的な内容の定着を図る視点等)
1・2年生	<ul style="list-style-type: none"> 子どもたちが主体的に学習に向かう姿勢を育むために、目標を明示し、目標達成のための計画を一緒に考える。また、子どもたちの疑問や興味を引き出す導入の工夫をする。 「話すこと・聞くこと」「書くこと」などの表現活動では、表現することの良さを感じられるように、感想や良かった点などを互いに伝え合う場面を設定する。 自己の成長や達成感を感じられるように、学習の振り返りをさせる。(タブレット等で自身の変化を記録することもできる) 	<ul style="list-style-type: none"> デジタルドリルの使い方や、個の学習の進め方(苦手な問題に挑戦⇒なぜ間違えたのか解き直す⇒間違えた問題に繰り返し挑戦する⇒少し難しい問題へ挑戦、等)を指導する。 新しい学習内容においても、既習事項を思い出させたり、復習したりしながら指導をする。
3・4年生	<ul style="list-style-type: none"> 一人ひとりの実態に合わせて、ワークプリントを数種類用意したり、必要に応じてヒントカードや交流できる場を設けたりする。 「書くこと」の場面では、ジャムボードを活用して、自分の考えを分かりやすくしたり、グループで話し合う際に思考整理しやすくしたりする活動を行う。 	<ul style="list-style-type: none"> 「漢字」の学習では、「とめ・はね・はらい」の基礎を確実に定着させるだけでなく、新出漢字を使った短文づくりや、こまめに辞書を引く習慣を身に付けさせる。 日頃から、書こうとする内容に対して根拠や理由を挙げたり、分かりやすく説明するための事例を挙げたりする練習を積ませる。
5・6年生	<ul style="list-style-type: none"> 「話すこと・聞くこと」の場面では、タブレット型端末を使って、班員同士で提案の練習の様子を撮影し合い、動画を実際に見ながら、互いの良さや課題を伝え合う活動を行う。 「書くこと」の場面では、google form を活用してアンケートを取り、その結果を基に自分の考えを分かりやすくまとめる。作成した文章は共有し、互いに推敲できるようにする。原稿用紙も用意し、書きやすい方を選ばせる。 	<ul style="list-style-type: none"> 接続語や語句の意味に着目させて読む習慣を付けさせる。また、段落ごとに小見出しをつけたり内容を要約したりすることで文章の内容や構成について理解を深められるようにする。 児童が自身の考えを伝えるためにはどのように構成していく必要があるか考えさせていく。そのために、ウェビングマップやフローチャートなど、児童の思考を整理するのに効果的な方法を取り入れる。

(2) 社会科

【小学校】

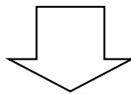
社会科における指導の重点

- ・ICT を効果的に活用した授業の実践
- ・地域や学校、児童の実態を生かした社会科学習を展開するための指導・評価計画の作成・活用と改善・充実
- ・人間尊重の精神と国際社会に生きる日本人としての自覚をもつ児童の育成

現状分析

教科指導上の課題

- ・資料から分かることを選び取ったり、読み取った事実から自分なりの考えを導き出したりすることを苦手とする児童が多いため、資料の見方をおさえ、数値の変化や、他の資料との異同等に着目し、自分の考えをまとめることができるように適切な発問や指示を行う必要がある。
- ・身に付けた知識や感じたことを言葉にして表現する力に個人差が大きいいため、分かったことを文章や図、表などにまとめたり、話し合ったりして読み取る力を高める指導をする必要がある。



授業改善プラン

	「個別最適な学び」と「協働的な学び」 の一体的な充実の視点	その他 (基礎的・基本的な内容の定着を図る視点等)
3・4年生	<ul style="list-style-type: none">・子どもが調べた情報を基に、それらの情報を交流し、共有する中で、社会的事象の意味を調べる学習課題を設定する。(協働的な学びの実現)・調べ学習では、「タブレット端末で検索→紹介しやすいように編集→学級全体に共有をし、意見交換をする」を指導する。・「各々が調べたものをタブレット型端末で編集→友達の意見を一覧にして表示→友達のまとめたものを見て、より深く知りたいところや疑問点をぶつけ、応えてもらう」←このような展開をしていく。(追究するための論点を焦点化)	<ul style="list-style-type: none">・ICTを通じて、家庭での個別学習の確立を図るために、デジタル教材やオンデマンド教材における基礎的な事項の把握や図表などに関する学習指導をする必要がある。・授業内で資料を提示する際は、Google Classroomの機能を用いて資料を子供たちの一台端末に配布し、写真の中に気付きを書き込ませるように指導する。これにより、教師の見取りも容易にもなる。・Jamboard等のツールを活用することで普段発表することが苦手な児童も自分の意見をまとめ、表明することができるようにしていく。
5・6年生	<ul style="list-style-type: none">・資料の見方をおさえ、数値の変化や他の資料との比較を通して、自分でまとめられるようにする。資料や学習形態は全員が同一のものでなく、問題に対して必要なものを選択し、使用できるようにする。・1つの資料を様々な視点で考えさせる問題から、複数の資料から共通するキーワードを考えたり、関連付けをさせたりする問題へと段階的に指導し、資料活用能力を高める。・身近に感じにくい日本各地で盛んに行われる産業の学習で、地域人材を開発したり、ICTを活用したりし、より身近に感じられるようにする。	<ul style="list-style-type: none">・Jamboard等のツールを活用し、グループ内での情報の共通や、課題の作成などを行う。・自力解決、成果の統合と吟味の時間をとり、一人一人が自分の考えを深められるようにする。また、その際に、Google Classroomで資料を配信したり、学習の軌跡をたどれるようクラウド上に学びを蓄積していくことで、学年ごとにはではなく、4年間を通して学んでけるようにする。

(3) 算数科

【小学校】

算数科における指導の重点

- ・問題解決的な学習を重視した指導を展開し、主体的な学びを創造する授業を行う。
- ・問題解決的な学習を展開し、自力解決と検討段階を充実させる。
- ・数学的な見方・考え方を働かせながら、知識および技能を習得したり、習得した知識および技能を活用できるようにする。

現状分析

区学力調査の結果分析

- ・達成率は、3年生が85.6%、4年生は85.1%で、ともに8.5割を超えている。問題別にみると、3年生は長さの正答率が目標値より10ポイント下回っており、繰り下がりのある引き算は、3・4年生とも、正答率が目標値より1ポイント下回っている。

教科指導上の課題

- ・測定機器の扱い方や目盛りの読み方、単位換算などをふり返って学習する機会を設ける必要がある。
- ・基礎的な四則計算の習熟度を学年相応まで高めることができるよう、指導する必要がある。



授業改善プラン

	「個別最適な学び」と「協働的な学び」 の一体的な充実の視点	その他 (基礎的・基本的な内容の定着を図る視点等)
1・2年生	<ul style="list-style-type: none">・正答ではなく誤答から、学習内容の理解を深めさせていくことで、分からない児童の視点と分かる児童の視点を出し合いながら「どうして〇〇なのか」という正答を導いていく。・学習のまとめを穴埋め方式や自由記述方式で書かせ、学習内容の理解度をみていく。・家庭学習としてタブレット教材を使い、児童に足りない学習内容を補うようにするだけでなく、担任が確認をして、それに伴った補習授業を行う。	<ul style="list-style-type: none">・自分の考えを具体物や半具体物などを操作しながら考える場面をより多く取り入れ、数や量についての感覚を豊かにする。・プリント、ドリル、デジタル教材のドリル、計算カードを活用し、既習の計算の反復練習を行う。文章題の場面を図に表したり、ポイントとなる言葉を丁寧に読み取る練習を繰り返したりして自力で立式する力を付ける。
3・4年生	<ul style="list-style-type: none">・繰り返し計算問題に取り組むことができるよう、ICT機器のデジタル教材を活用する。・授業の中で友達に自分の考えを友達に話したり、友達の考えを違う児童に話したりする機会を多く設ける。・つまずきやすい学習内容(困ったこと)を学習課題として学級全体で解決する機会を単元に1回以上設ける。	<ul style="list-style-type: none">・問題提示で、実生活での場面を想定したものにしたたり、児童が自分で図を描きながら考えたりするよう指導していく。・繰り返し計算問題に取り組むことができるよう、学習プリントやICT機器のデジタル教材を活用する。
5・6年生	<ul style="list-style-type: none">・課題に対して、自分の考えをもたせ、集団や全体で話し合い、解決方法を導く問題解決型学習を軸に、授業展開を進めていく。・課題が終わった児童はAIドリルを活用し、自身の苦手分野や習熟度に合わせた問題を解き、理解の定着を図る。	<ul style="list-style-type: none">・夏季補充教室等を活用し、理解に時間のかかる児童を個別に指導したり、授業中における児童同士の教え合いを授業の中で取り入れていく。

(4) 理科

【小学校】

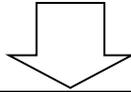
理科における指導の重点

- ・理科の見方考え方を働かせ、主体的に粘り強く問題解決に取り組む力の育成。
- ・学習したことを身の回りの生活と結びつけて考えたり、生活をよりよくしようと考えたりする力の育成。

現状分析

教科指導上の課題

- ・ 問題解決の形にとらわれすぎず、児童一人ひとりが問題解決に主体的に取り組めようとするともに児童が自由に思考をし観察・実験を調整する力を育めるよう授業展開や授業の時間配分について改善を図る必要がある。
- ・ 観察・実験の結果を正確に記録し、共有し合えるようICT機器の使用法や使用できる場面についても指導する必要がある。



授業改善プラン

	「個別最適な学び」と「協働的な学び」 の一体的な充実の視点	その他 (基礎的・基本的な内容の定着を図る視点等)
3・4年生	<ul style="list-style-type: none">・ 友達の考えを共有する時間を確保し、相違点や共通点から結論づけることで実感を伴った理解へとつなげる。また、考えや実験結果を共有しやすいように、ジャムボードやコラボノートを活用していく。・ 導入部分で既習内容の復習をしたり実生活での体験を振り返ることで、予想・仮説を立てる際の根拠をもたせやすくする。・ 予想・仮説を立てるのが難しい児童に対しては、キーワードの提示を行ったり友達の書き方を参考にしたりする時間をとったりして書き方を指導していく。	<ul style="list-style-type: none">・ 観察や実験に必要な器具の取り扱いについて児童全員が身に付けられるよう支援していく。映像や写真などでも器具の使い方の確認や実験結果の記録ができるようタブレット端末の使用について指導する。
5・6年生	<ul style="list-style-type: none">・ 児童それぞれが問題を見だし、問題解決を行っていく授業展開を目指す。その際、進度が違って問題解決の課程が共有できるようスプレッドシートやコラボノートを活用していく。・ 実験の結果についてはタブレット端末を活用し、記録する。それぞれが得た結果を見合い様々な視点から検討することで、考察や結論へとつながっていく授業を構築する。	<ul style="list-style-type: none">・ 問題が見いだせるような事象提示を工夫する。・ 児童が主体的に問題解決に臨めるよう、問題解決を行うための集団についても児童と相談を重ねながら行う。・ 問題解決の課程において、結果を見通しながら進められるよう指導する。

(5) 生活科

【小学校】

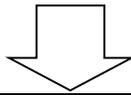
生活科における指導の重点

- ・ 活動や体験の過程において、自分自身、身近な人々、社会及び自然の特徴の良さ、それらの関わり等に気付くとともに、生活上必要な習慣の技能を身に付けるようにする。
- ・ 子どもが繰り返し関われるように、学習教材を精選する。
- ・ 身近な人々、社会及び自然を自分との関わりで捉え、自分自身自分の生活について考え、表現する力を育成する。
- ・ ICT教材を使いながら、どのような活動ができるのか実践していく。
- ・ 身近な人々、社会及び自然に自ら働きかけ、意欲や自信をもって学んだり生活を豊かにしたりしようとする態度を育てる。
- ・ 単元が終わった後も、子どもの気付きを取り上げながら、「生活を豊かにする」ことを共有する。

現状分析

教科指導上の課題

- ・ ICT機器の活用方法については、計画的に進める必要がある。(1年生)
- ・ 1年前に上級生にしてもらったことを実践したいという児童が多く、園児との交流に前向きな姿勢で取り組んでいた。
- ・ 地域の人との関わりや校外探索の機会が少なかった。



授業改善プラン

	「個別最適な学び」と「協働的な学び」 の一体的な充実の視点	その他 (基礎的・基本的な内容の定着を図る視点等)
1・2年生	<ul style="list-style-type: none">・ 「きれいにさいてね」では、あさがおの観察や世話の仕方に差が生まれた。個別に声をかけていく必要がある。(1年)・ 「ぐんぐんそだてわたしのやさい」では、野菜の苗を植える際に自分で苗を選んで買いに行くことや植え方や育て方を外部からの講師に教えてもらうことで、大切に育てようという気持ち・意欲につながる。(2年生)・ 「なつがやってきた」では、学習計画を立てる際、それぞれが体験してきた園での体験を基に情報共有できた。しかし、集めた材料に違いが見られ関心の度合いがはっきりした。教師が試しに実演したり、やってみたいことを聞くことで興味をもたせる。友達がやっている様子を観て回り、一緒にできるか相談する。(1年)	<ul style="list-style-type: none">・ 「がっこうたんけん」を通してもっと知りたいことを調査し、児童がさらに学校にいる人のかかわりを深めることができるようにコンタクトを取る必要がある。・ 観察カードや世話の仕方などで個別に良い点を見出し、称賛していくことで、さらに関心が高まると考える。・ 「なつをあそびずかん」を参考に保護者に材料の協力をお願いする。本児の願いを把握した上で教師も材料の準備や素材を生かした作品作りを支援する必要がある。

(6) 音楽科

【小学校】

音楽科における指導の重点

- ・ 曲想と音楽の構造などとの関わりについて理解するとともに、表したい音楽表現をするために必要な技能を身に付けるようにする。
- ・ 音楽表現を工夫することや、音楽を味わって聴くことができるようにする。
- ・ 音楽活動の楽しさを体験することを通して、音楽を愛好する心情と音楽に対する完成を育むとともに、音楽に親しむ態度を養い、豊かな情報を培う。



現状分析

教科指導上の課題

- 1年:鍵盤ハーモニカでは、基礎的な技能の定着を目指し繰り返し練習をした。タンギングの仕方や息の量に着目した指導が不十分であるため、音色にも着目しながら楽器を演奏する楽しさを味わえるようにするのが課題である。
- 2年:音楽に合わせて体を動かす活動を行うことで、音楽の要素や変化を聴き取り、曲想を感じ取りやすくなった。また、それらに着目して聴くことにより、曲想の変化に気付き情景を思い浮かべて聴くことができたが、音楽を聴き即座に曲想や変化に合わせて動くことは不十分である。
- 3年:曲の特徴を捉え、どのように演奏するかについて思いや意図をもつことができるが、それらを表現する技能に課題がある。
- 4年:音楽づくりの学習で、音の動きから音楽がどのような感じになるのかについて着目して音楽をつくった。即興的に音楽をつくることはできたが、音の動きについての理解が不十分だった。
- 5年:コロナ下で十分にできていなかった歌唱やリコーダーの基礎的な技能の定着を図り、表現に生かす指導をする必要がある。
- 6年:昨年度行われた音楽会での合奏経験を生かし、学芸会や卒業式に向けた歌唱を含めた他の領域でも関連付けて考え、表現の幅を広げることが課題である。

授業改善プラン

	「個別最適な学び」と「協働的な学び」 の一体的な充実の視点	その他 (基礎的・基本的な内容の定着を図る視点等)
1年生	<ul style="list-style-type: none">・ 演奏で気を付けることや工夫を友達と共有し、演奏の技能の手立てにしていく。・ 独奏から合奏へとつなげ、楽器で演奏することの楽しさや喜びを味わいながら活動していく。	<ul style="list-style-type: none">・ 模範演奏をもとに、音色や演奏の仕方との関係に気づくことができるよう指導していく。・ 苦手意識が芽生えないよう、個々の実態に合わせた指導をしていく。
2年生	<ul style="list-style-type: none">・ 様々な音楽に合わせて体を動かす活動を取り入れて指導する。また、ペアやグループ活動を用いて、感じ取ったことを共有する。体を動かすことが苦手な児童が、自分なりの表現ができるように、手拍子を用いた表現を取り入れるなど、表現方法を工夫する。	<ul style="list-style-type: none">・ 音色に気を付けて演奏する技能や、互いの楽器や伴奏を聴いて演奏する技能を身に付けることができるように、楽器の音色と演奏の仕方との関わり気づくことができるよう指導していく。

3年生	<ul style="list-style-type: none"> ・ 曲想を感じ取らせるために、個人の考えを全体で共有する。また、曲想に合った表現をしている児童を取り上げ、価値付けていき全体で共有していく。 ・ 楽器のもつ音色やその響きを生かした演奏するために、それらを意識した活動を継続的に取り組み、互いの演奏を聴き合うことができるよう、活動方法を工夫する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ リコーダーの学習では、児童の実態に応じて練習方法を変え、スモールステップで取り組む。また、リコーダーの運指や楽器の演奏の仕方が確認できるよう、動画を用いて Google クラスルームを活用する。 ・ 音楽に合わせて体を動かすことや、音符の長さに合わせて手拍子をしたり、音の高低を表しながら階名唱で歌ったりすることによって、楽譜に親しみ、知識的な学習が演奏につながる機会が増えるよう、継続的に指導していく。
4年生	<ul style="list-style-type: none"> ・ 常時活動の中でリコーダーを使った個別の創作活動を取り入れ、創作することに抵抗なく取り組める素地と、創作に必要な「音の動き」「続く感じ」「終わる感じ」等を教師の声かけによって意識できるようにしていく。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ スクラッチを使用して、全体での読譜練習は一学期に終えたため、2学期以降は個人の端末を使用した個別学習による読譜練習を行い、更なる読譜の定着を図る。
5年生	<ul style="list-style-type: none"> ・ 創作活動では一人一台端末を使用して1学期に勉強した楽曲のアレンジを行う。互いにアレンジを見せ合うことで、音楽の仕組みや音楽づくりにおける様々な発想を感じ取り、認め合い、次の創作活動への工夫に繋げる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ リコーダーは毎時間基本の練習を入れることで基礎力の定着を図り、取り組む曲を習熟度に合わせて自分で選べるようにすることで無理のない技能向上を目指す。
6年生	<ul style="list-style-type: none"> ・ 学芸会を通して人前で歌うことに慣れさせ、卒業式に向けた表現豊かな歌唱に繋げる。練習の場に応じて、様々な形で互いの歌声を聴きあう機会を設けることで、協働的な学びに繋げる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 様々な音楽に親しむことができるように教材の幅を広げ、児童が広い視野をもてるようにする。 ・ 合奏練習では、各パートの演奏を動画にし、共有ドライブに入れておくことによって、必要に応じて児童が自主練習できるようにしておく。各行事に合わせた体育館練習では、毎回動画を撮り、音楽の授業外でも振り返りができるようにすることで、次の練習時間をより有意義に使えるようにする。

(7) 図画工作科

【小学校】

図画工作科における指導の重点

- ・自分の感覚や行為を通して対象や事象を造形的に捉え、表し方を工夫しながら創造的に作り出すこと
- ・造形的なよさ、表したいこと、表し方について発想・構想し、自分の見方や感じ方を深めていくこと
- ・作り出す喜びを味わうとともに、形や色などに関わり、楽しく豊かな生活を創造しようとする

現状分析

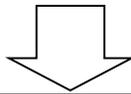
教科指導上の課題

(3,4年)

- ・学習に興味をもち意欲的に取り組む児童は多いが、活動の中で自分の表現に自信をもたせられていないことや、集中力を持続させられるような活動の展開が出来ていないことが課題である。

(5,6年)

- ・友達と作品を見合い、楽しく表すことはできているが、細かい作業など技能面の能力の個人差を縮められていないことや、自分の表したいイメージと、実際の表現したものとの差があると感じ、自分なりにイメージをもち自由に表すことに自信をもたせられていないことが課題である。



授業改善プラン

	「個別最適な学び」と「協働的な学び」 の一体的な充実の視点	その他 (基礎的・基本的な内容の定着を図る視点等)
1・2年生	<ul style="list-style-type: none">・一人ひとりの興味を引き出し、意欲的に取り組めるよう、クレヨンや絵の具、カラーペンなどを使って想像を膨らませながら楽しんで作品作りに取り組むめるようにする。・制作途中で作品を見合ったり、考えていることを話し合ったりすることを通して、ともに高め合えるようにする。・立体作品などはタブレットに保存し、後日鑑賞できるようにする。・作り方などを動画で撮り、それぞれのタブレットに送る。自分のペースで作業方法を確認できるようにする。	<ul style="list-style-type: none">・はさみの扱い方が十分に定着するよう指導を徹底する。・用具の準備や安全な使い方、机上の配置の仕方、整理、片付けの指導を十分に行う必要がある。
3・4年生	<ul style="list-style-type: none">・児童の表現がさらに広がるような導入指導をしたり、個々の良さを認め周りに紹介したりする。また、お互いの作品を鑑賞する時間を持ち、そのよさを認め合う時間を作る。友達に認められる経験を通して、自分の発想に自信をもったり、自由に表現したりする意欲を高める。・作品の具体的なイメージや工夫の仕方などが分かりやすく、児童の表現がさらに広がるような導入指導のため、取り組みのポイントや活動の流れを自分で確認できるよう手順をタブレットで紹介したりしながら見通しをもって取り組めるよう支援する。	<ul style="list-style-type: none">・材料や用具の使い方などは教師の見本を見せながら、扱いの具体的なイメージや注意点などが分かりやすいようにする。

<p>5・6年生</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ 自分の思いを自由に、自信をもって表現できるようにタブレット端末などの ICT 機器を活用し、自分で資料を検索し活動に生かしたり、参考作品や手本を見せ、児童が考えをふくらませ、授業の展開の見通しをもてるよう支援する。 ・ 自由に試せる安心感のもと、何度もやり直しできる題材を設定し、表現の手がかりとすると同時に、お互いの作品を鑑賞する時間をもち、表現の手がかりとなるようにする。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 既習事項も幅広く復習しながら、自信をもって目標を達成できるよう支援する。
--------------	---	--

(8) 家庭科

【小学校】

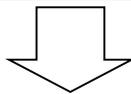
家庭科における指導の重点

- ・生活に生かす力を育むために、題材構成と学習過程が重要である。題材を「見付ける・気づく－分かる・できる－生かす・深める」の3ステップで構成し、スパイラルに力を高めていく必要がある。また、問題解決的な学習課程を通して、主体的で対話的、深い学びを図る。そのような中で、目標と評価の一体化を目指していく必要がある。

現状分析

教科指導上の課題

- ・生活経験の有無が大きく関わっていることもあり、基本的な裁縫技能や調理の分野で知識・技能の習得状況に個人差が見られた。
- ・コロナ禍を受け、調理を行うことができないなど、十分な指導を行うことができないことがあった。



授業改善プラン

	「個別最適な学び」と「協働的な学び」 の一体的な充実の視点	その他 (基礎的・基本的な内容の定着を図る視点等)
5・6年生	<ul style="list-style-type: none">・個別最適：主体的な学びの視点として活動の見通しとゴールが明確になると自ら取り組むことができる。主体的な学びには、課題と評価が必要となる。例えば導入にフォトランゲージを活用して、対話を通して課題をつかませる。追究では見通しをもって粘り強く取り組み、活動を振り返り、次の課題がもてるように学習過程を改善していく。・協働的：対話的な学びの視点として対話とは、考えを相互作用させ創発することである。仲間と互いに考えを広げ深めていく場面を仕組むことが授業改善となる。追究過程の「考える・計画する－実践する－振り返る」では、対話を通して、共同的に課題解決に取り組ませる。・深い学びの視点 深い学びは題材を通して知識技能を生かす活動を積み重ねながら知識技能を体系化して家庭生活に適応できるよう題材を通して育む。	<ul style="list-style-type: none">・授業で学習したことを実践したり、生活に生かしたりしている児童の姿を共有し、称賛することで価値付けていく。・授業で学習したことを、家庭でも実践することができるよう、家庭学習（宿題）とタイアップして取り組ませることを行う。・ICT機器を活用し、行い方や技能のポイント等を視覚的にも理解できるようにする。・調理に関しては、調理の様子をICT機器で記録をすることも指導した。・家族や家庭、衣食住、消費や環境などについて、日常生活に必要な基礎的な理解を図るとともに、それらに係る技能を身に付けるようにする。・日常生活の中から問題を見い出して課題を設定し、様々な解決方法を考え、実践を評価・改善し、考えたことを表現するなど、課題を解決する力を養う。・家庭生活を大切に育む心情を育み、家族や地域の人々との関わりを考え、家族の一員として、生活をよりよくしようと工夫する実践的な態度を養う。

(9) 体育科

【小学校】

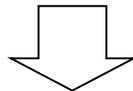
体育科における指導の重点

- ・体育や保健の見方や考え方を働かせ、課題を見ることができるようになる。
- ・自身で見つけた課題を解決するための学習過程を通して体力を高めることができるようになる。
- ・指導内容と評価すべき内容が乖離しないよう、より深い教材研究や教材開発を実施していく。

現状分析

教科指導上の課題

- ・「できる」を実感し、「楽しい」授業を十分に実施することができていなかった。
- ・20mシャトルランの数値が全国平均を下回っている学年が5つあり、課題として挙げられる。
- ・男女ともに50m走数値が全学年、全国平均を下回っている。



授業改善プラン

	「個別最適な学び」と「協働的な学び」 の一体的な充実の視点	その他 (基礎的・基本的な内容の定着を図る視点等)
1・2年生	<ul style="list-style-type: none">・運動や遊びの経験の差がある中で、幼保で経験した遊びや歌遊び、易しい運動遊びなどから始め、「誰でもできる」「どこでもできる」という経験をもたせていく。・友達と一緒にいったり、見合ったり伝え合ったりする場面を意図的に設定する。	<ul style="list-style-type: none">・運動遊びが苦手な児童には、教員と一緒にいったり、友達の動きを見せたりすることで、基本的な動きの定着を図ったり、動きを広げたりしていく。・ICTを活用した振り返りの場を適宜設定することで、教員が即時評価をしたり、児童が友達の振り返りを見ながら行うことができるようにし、振り返りの行い方を価値付けられるようにする。
3・4年生	<ul style="list-style-type: none">・低学年の運動遊びをもとに、まずは易しい運動から扱う。スモールステップの学習過程で「できそう→できた」という成功体験の繰り返しを積み重ねられるようにする。・iPadで動きの様子を撮影し、それをグループで見合うような活動を取り入れる。	<ul style="list-style-type: none">・学習カードなどの振り返りを用いて児童の実態を授業毎に把握し、それを活かした授業改善を行う。
5・6年生	<ul style="list-style-type: none">・当該学年だけでなく、2カ年の指導計画を立て、系統性を意識した指導を行う。・運動経験が減っているため、基本的な動きの習得の時間も確保していく。・自身の課題を見付け、効果的な運動経験をするためにも動画を撮るなどして話し合いのきっかけ作りをしていく。	<ul style="list-style-type: none">・授業時間内における「言葉掛け」に重点を置き、児童との関わりを密にしていく。・教具を児童が使用できるようにするなどして、休み時間等にも主運動につながる遊びに取り組める場を作る。・運動特性を味わうことのできる「感覚づくり」の充実を図る。

(10) 外国語活動・外国語科

【小学校】

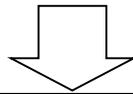
外国語活動・外国語科における指導の重点

- ・言語や文化について体験的に理解を深め、外国語の音声や基本的な表現に慣れ親しむ。
- ・言語活動を通して、コミュニケーションにおいて活用できる基礎的な技能を身に付ける。
- ・音声に十分に慣れ親しませ、自分の考えや気持ちなどを伝え合うことができる基礎的な力を養う。

現状分析

教科指導上の課題

- ・英語を話すことに対して苦手意識のある児童が自信をもって話すことができるように基礎基本の定着を図る指導が必要である。
- ・アルファベットや簡単な英文を正しく書くことができるようにライティングのきまりや語順を意識した指導をする必要がある。(5・6年生)



授業改善プラン

	「個別最適な学び」と「協働的な学び」 の一体的な充実の視点	その他 (基礎的・基本的な内容の定着を図る視点等)
外国語活動	<ul style="list-style-type: none">・発表活動では自分の伝えたいことを整理して視覚的に分かりやすく伝えることができるように、一人1台端末を活用して画像や動画等を用いながら発表する。・既習語句や表現を用いた言語活動を中心に行い、ペア活動やロールプレイを積極的に活用する。	<ul style="list-style-type: none">・「聞く」ことに重点をおき、TPRを活用して体を動かしながら英語を身に付ける。・「聞く」「話す」を中心としたナチュラル・メソッドを活用し、確実にインプット、インテイク、アウトプットを行う。
外国語科	<ul style="list-style-type: none">・発表活動では積極的に Google スライドを活用し、伝えることを整理したり、情報を共有したりしながら進める。・CLT を中心とした言語活動を取り入れ、インフォメーションギャップ活動やロールプレイを積極的に活用する。	<ul style="list-style-type: none">・「聞く」「話す」を中心としたナチュラル・メソッドを活用し、確実にインプット、インテイク、アウトプットを行う。・デジタル教科書のアルファベットチャートを活用し、音声で十分慣れ親しませてから、四線上に正しく文字を書く練習を繰り返し行う。

(11) 特別の教科 道徳

【小学校】

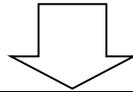
道徳科における指導の重点

- ・道徳教育推進教師を中心に道徳科の毎時間の授業の充実をはかり、特に物事を多面的・多角的に考えさせるために児童の多様な感じ方や考え方に触れさせる授業を展開する。

現状分析

教科指導上の課題

- ・児童が自己を教材の登場人物に重ねて、自分の思いや考えを考えられるように、教材提示を充実させる必要がある。
- ・児童がどの場面のことを考えやすいように、明確な発問が必要である。
- ・ねらいとする道徳的価値に基づき自己を見つめられるように、展開の後半を工夫する必要がある。



授業改善プラン

具体的な授業改善案

- ・教材によってパワーポイントを活用したり、BGMを使用したりして、児童が教材の世界に浸れるように工夫している。作成した教材は学年等で共有し、今後も活用できるように校内体制を整える。
- ・職員室に全教材の場面絵(掲示用)を用意しており、いつでも授業に活用できる環境を整えている。場面絵を提示することで児童はどの場面のことを考えるのか視覚的に分かりやすくなる。
- ・全校で同じ道徳ノートを展開の後半で活用している。自己の振り返りでじっくりと自分を見つめられるよう書く活動を大切にしている。
- ・持ち回り道徳を年2回実施している。学年全体で、道徳の授業を見合ったり、児童全体を見守る環境を作っている。